

vol. 12

もっと知りたい！熊本市 KUMAMOTO CITY

まちづくり探検隊



「探検隊」メンバーが、まちづくりや地域活動のキーパーソンに突撃インタビューする「聞かせて 地域の元気モン」。今回は、今年5月に南区城南町の隈庄校区自治協議会会長に就任した上田恵美子さんに、地域活動に賭ける思いや女性の視点を生かした校区運営などについて話を聞きました。

私が話を聞きました！

同年代の働く女性が、どんなふうに関わっているのかが、とっても気になります！

探検隊メンバー 高見睦代さん(58)



今週の元気モン

隈庄校区自治協議会

会長 上田 恵美子さん(60)

1958年、熊本生まれ。結婚後、89年に旧城南町に引っ越し、以降、さまざまな地域活動やまちおこしに関わり、98年から同町議を11年間務める。現在も、小学校の学級支援員として働く傍ら、隈庄校区青少年健全育成協議会会長、城南火の君太鼓名誉会長など地域で多数の役割に就く。夫と長男、母の4人暮らし。



▲隈庄校区自治協の大きな仕事の一つ「コミセン夏祭り」(8月開催)。地域の若い世代も積極的に関わり、地域一丸で準備に当たります

若い人たちが住みたくなる地域にするため 文化活動の充実や後進の育成にも力を注ぎます！

“地域の元気モン”として 城南地域を盛り上げる上田さん

今や城南町を代表する伝統芸能グループとなった「城南火の君太鼓」の立ち上げを皮切りに、さまざまな地域活動に携わってきた上田さん。昨年、長年途絶えていた地元の獅子舞復活にも尽力しました。また、城南地域の魅力を多くの人に知ってもらおうと集まった若手有志の会「城南地域ブランド力向上検討委員会(通称:チーム城南ワンダホー)」のアドバイザーとして、地域を担う後進の育成にも力を注いでいます。



◀定期公演はもちろん、全国大会でも優秀な成績を収めている「城南火の君太鼓」。海外公演の経験も！



▶昨年、60年ぶりに復活した「宮地獅子舞」。踊りの振り付けやお囃子(はやし)づくりを「城南火の君太鼓」が担当

取材を終えて



私とほぼ同年代の上田さん。取材前は、「まだまだ仕事や家事に忙しいのにどうやって地域のために活動しているのだろう?」と不思議でした。でも、何でも一人でやろうとせず、周囲の協力を得ながら地域運営や行事の準備を進めていると聞き、「もっと早く、こんなすてきな女性に会いたかった!」と思いました(笑)。現在は、まちおこしに関わる若手の育成にも携わっているそうですが、きっと上田さんの背中を見て、城南町の次代を担う後進が育つと思います。(高見さん)

Q1 上田さんが地域活動に携わるようになった、きっかけは?

太鼓チーム結成を機に地域とつながる

30 年ほど前に城南町に移り住み、子どもたちを連れて地域の夏祭りに行きました。その時、「祭りで太鼓の音がしないのは寂しいな」と思い、今の「火の君太鼓」の前身となる太鼓チームの結成を呼び掛けたのが始まりでした。そこでメンバー集めや練習場所探しなどを通して地域とのつながりができたことがきっかけとなり、校区の青少年健全育成協議会や自治会などの活動に関わるようになりました。

Q2 校区をまとめる「校区自治協議会会長」は大変では? 副会長の協力も得ながら仕事や家庭と両立

校区自治協議会は、町内自治会をはじめ、校区内のさまざまな各種団体で構成されているので、ヨコの連絡・調整などは大変です。また、昼間は小学校の学級支援員の仕事をしており、校区自治協の打ち合わせや会議などに出席できないこともあります。そんなときは2人の副会長にもサポートしてもらっています。だから、隈庄校区は私一人が会長ではなく、「3人で一人の会長」なんです(笑)。また、夜も地域の集まりなどが多いのですが、必ず家族の食事の準備だけはしていくようにしています。

Q3 今後の校区運営で取り組みたいことなどは? 増加する子どもたちのために文化的な活動も

隈庄校区は宅地化が進み、小学校の児童数も年々増えているので、子どもたちや子どもを育てる若い親たちが住みたくなる地域にしたい。その一つとして、地域の文化活動に力を注ぎたいと思っています。具体的には、演劇サークルを作り、そこで子どもミュージカルなどができたらいいですね。校区のキャッチフレーズである「隈庄は古きも新しきも交り合い明るく会話が弾むまち」にするためにも、皆さんの協力を得ながら頑張っていきます。

元気モンの格言



自分が地域で楽しく過ごしたいから頑張れる

